

令和2年度第1回「地域フォーラム」

奈良県の新型コロナウイルス感染症対策 について

令和2年10月11日(日)
川西文化会館

奈良県知事 荒井正吾



新型コロナウイルス感染症にかかる 本県の3つの対処方針

1. 感染経路の類型を明確化し、類型に応じた明確な注意をする。
2. 感染者を早期発見・即時隔離し、感染されたすべての方に入院治療・宿泊療養を提供する。
3. 重症化予防により、死亡や後遺症の発生をおさえる。

1. 感染経路の類型を明確化し、類型に応じた明確な注意をする。

- ・新型コロナウイルスは、人から人へうつることから、感染経路の類型を明確にすることにより、類型に応じた「うつらない」「うつさない」ための対策をとることができます。
- ・このため、これまでから感染経路の調査と推定に力を注いできました。
- ・今後、更に詳細な感染経路分析を進め、類型毎のより効果的な感染予防、感染拡大防止のための注意事項を発信してまいります。

2. 感染者を早期発見・即時隔離し、感染されたすべての方に入院治療・宿泊療養を提供する。

- ・感染者を早期に発見し、隔離することにより、新たな感染の拡大を防ぎます。
- ・このため、感染リスクのある方が身近なところで検査を受けられるように、外来診療体制の構築を一層進めます。
- ・また、即時隔離できるように、入院病床・宿泊療養施設を確保し、安心して療養できる環境を整えています。

入院及び宿泊施設の利用状況

入院病床の現在の占有率は約6%、
宿泊療養の現在の占有率は約0%となっており、
ともに**余裕のある状況**です。

現在（10/10）

入院対応可能数	4 6 7 床
占有者数	2 6 名
占有率	約 6 %

宿泊療養室数	1 0 8 室
占有者数	0 名
占有率	約 0 %

3. 重症化予防により、死亡や後遺症の発生をおさえる

- ・重症化した方には、治療薬や人工呼吸器・ECMO(体外式膜型人工肺)を組み合わせた集中治療を提供し、回復を促します。
- ・そのため、集中治療を提供できる重症対応病床を確保し、安心して治療を受けることができる環境を整えています。
- ・重症対応病床での治療を必要とする患者を、対応可能な病院へ速やかにつなげられるよう、重症患者の定義を見直し、入院患者の状況を把握できる仕組みにしています。
- ・7月以降の治療実績は、重症化率3%、死亡率1.4%となっており、第1波における重症化率7%、死亡率2.2%から改善しています。

重症対応病床の状況（第1波との比較）

重症患者に対応した病床を25床確保しています。
現在の占有率は0%となっており、**余裕のある状況**です。

	第1波（4/29）	現在（10/10）
対応可能数	6床	25床
占有者数	5名	0名
占有率	約83%	0%

＜経済活動活性化に係る対処方針＞

1. 県民による県内消費の促進

落ち込んだ本県経済の回復を図るためには、感染症対策と経済活動の両立が必要。感染リスクを抑えつつ、**県内消費を促進**することで、県内経済を再活性化します。



2. 事業者の感染症対策等の取り組みを支援

県内事業者の感染症対策や新しい生活様式に対応するための取り組みを支援し、感染リスクを抑えることで、**県内消費の促進に寄与**します。



3. 新型コロナウイルス感染症で大きな影響を受けた事業者等を支援

中小企業や小規模事業者、生活困難者など、新型コロナウイルス感染症の影響で大きな影響を受けた方々を支援することで、**県内消費を下支え**します。



感染リスクを抑えつつ、県内経済を再活性化

＜参考＞ 出典：平成26年全国消費実態調査

○県内1世帯あたりの 消費支出額	全国11位 （302,206円）
○県内1世帯あたりの 県外消費率	全国1位 （15.2%）
○県内1世帯あたりの 県内消費額	全国35位 （139,472円）